

物流博物館 NEWS VOL.6

開館5周年特集号

特集

“『はこぶ』をきわめるミュージアム”の5年間

1998年に開館した物流博物館は、今年8月で開館5周年を迎えます。「わが国で初めての物流専門の博物館」として発足して以来、毎年少しずつ活動の範囲を広げ、現代の物流産業や「はこぶ」歴史の紹介をさまざまな側面から行ってきました。

その間、特に小学校を中心に中学・高校・短大・大学・専門学校など、幅広い学校見学に対する対応に力を入れる

とともに、毎年夏休みには幼児から青少年を対象にした各種体験講座や見学会を開催し、また成人向けの古文書講座、講演会、物流に関わる産業映画の上映会、特別展・企画展なども恒例の行事として定着してきました。

今号では、こうした物流博物館の5年間を振り返りながら、これからの新しい物流博物館像を展望してみたいと思います。



小学校の見学風景（「現代の物流」展示室）



昔の運ぶ道具による「運びくらべ」体験



夏休み小学生バス見学会（大井海上コンテナ埠頭にて）



学生・社会人が参加する美術品梱包講座

“物博” 5年間の歩み

物流博物館は1998年8月に東京・港区に開館しましたが、もともとは1958年に日本通運株式会社本社内開設された通運史料室（1987年に物流史料館と改称）がその前身となっています。物流博物館としてリニューアルオープンするにあたり、企業色を抑え現代物流および物流の歴史を紹介する常設展示室を設け、広く一般に公開され今日に及んでいます。

開館以来、この5年間に物博を訪れてくださった来館者は約42,000人。小規模ではありますが「運ぶ」という特殊なテーマを扱った博物館として、次第に認知されてきていると感じています。

以下では、この5年間に当館が行った事業について回顧しつつ、館の活動の紹介をしてみたいと思います。

1. 常設展示—展示制作と更新—



「現代の物流」展示室・陸海空の物流ターミナル大型ジオラマ/団体見学の際にはここでトラック・鉄道・船・航空機など各輸送機関の解説が行われます。

当館には1階の「物流の歴史」展示室、地下1階の「現代の物流」展示室、2階の映像展示室という3つの常設展示室があります。これらは開館2年前より展示準備を行い、展示制作においては館外の研究者の方々、多くの博物館、物流関係企業各社などのご協力を頂きました。

「現代の物流」展示室では大型ジオラマ模型やビデオ・情報機器などを用いて物流産業の全体像を提示し、「物流の歴史」展示室では館蔵資料を用いて江戸時代から現代に至る物流の歩みを中心に展示を構成しています。

また、2階にある映像展示室では、物流を紹介するビデオ作品や物流に関する過去の産業映画などを毎日定時上映するとともに、多目的のスペースとしてコーナー展示、講座・講演などを行ってきました。この間、「物流の歴史」展示室では毎年展示変更を実施



常設展示解説書
『物流がわかる本』
(2001年改訂版・400円)

し、「現代の物流」展示室でも昨年度展示の一部修正を行い、また、館内の17本の展示映像の一部やパソコンのクイズなどでも改訂を行いました。しかし、5年の間に常設展示における構成上の改善すべき点なども明らかになってきています。見学者の皆さんのご意見を伺いながら、今後のリニューアルに備えて行きたいと思います。

2. 特別展示

当館では、開館初年度より年1回のペースで、これまでに5回の特別展示を開催しました。館には約12000点の館蔵資料のほか、膨大な数の物流関係の写真コレクションなどがありますが、常時展示できる数は限られており、特別展などの機会を通じてコレクションの紹介を行っています。これらの展示会では、初回を除き毎回展示解説図録を発行しています。

●「むかしの輸送—明治のはじめ、荷物はどのように運ばれたか—」

開催期間：1999年3月25日～5月5日

内 容：明治初期の国内輸送を館蔵資料により紹介。

●「写真と映像でたどる物流の20世紀」

開催期間：2000年3月24日～5月21日

内 容：20世紀における物流の歩みを、約280点の写真と18本の映像資料により紹介。

●「収蔵資料展 京都馬借/鉄道錦絵コレクション」

開催期間：2001年4月28日～6月3日

内 容：江戸時代の輸送業者、京都馬借について館蔵資料を用いて展示。また、館蔵の鉄道錦絵コレクション展を同時開催。

●「日本通運株式会社所蔵・横浜浮世絵コレクション展」

開催期間：2002年3月30日～5月6日（1期）

5月14日～6月16日（2期）

内 容：幕末から明治初期にかけて出版された横浜浮世絵約300点を2期にわけて紹介。

●「宅扱 昭和はじめの宅配便」

開催期間：2003年4月26日～6月15日

内 容：今日の宅配便によく似た昭和初期の鉄道貨物の制度「宅扱（たくあつかい）」を紹介。



2003年度企画展示「宅扱 昭和はじめの宅配便」

3. 学校見学をふりかえる



「物流の歴史展示室」

・学校関係団体数とその変遷

昨年度3月末までに物流博物館を訪れた学校は、小学校が184校10,348名、中学・高校・短大・大学・専門学校などを含めると、計307校13,210名となります。学校関係団体だけで、全団体見学者数の約74%、全入館者数の約32%を占めることとなります。

この間、特に力を入れてきた小学校の団体見学では、毎年当館を訪れてくださるリピーターの学校が大きな割合を占めるようになりました。学校関係の団体見学では、初年度より入館料免除の措置をとっています。

・小学校の団体見学

開館以来、小学生の見学は5年生が中心です。小学校の団体見学では、初年度は物流に関するビデオ上映と学芸員の展示解説を組み合わせただけの形式でしたが、翌年からワークシートを作成、毎年改訂版を作るとともに、しらべ学習・自由見学・体験を重視したい、物流現場で働く人の声を聞きたい、といったさまざまな学校側の要望に対応できるような見学案内の体制を整えてきました。

こうした小学校の団体見学を実施するに際して、先生方に参考にしていただくため、2000年度には『見学のしおり』（翌年度に改訂版『社会科見学のしおり』と改称）を作成しました。また、さまざまなパターンの見学のあり方は、2002年度に『小学校団体見学事例レポート2002』というパンフレットにまとめられています。



『社会科見学のしおり』
(ホームページに公開予定)



『小学校団体見学事例レポート
2002』

・新学習指導要領・新教科書への対応

2002年度の新学習指導要領の改訂に伴い、来館する小学生の中心である5年生の社会科教科書から「運輸」の単元がなくなりました。また、総合的な学習の時間の本格導入に伴い学校側の体制の変化も予想されたため、当館では2001年度に「物流博物館活用委員会」を設け有識者への諮問を行いました。新教科書では「運輸」の内容が各産業の学習に分散しているため、館の見学を通して「運輸」の知識のまとめを図ることを重視し、これに伴い見学後の先生方へのアンケートも改訂しました。学校での学習に博物館での見聞が加わることで、より深い学習が可能となると考えています。

・「運ぶ」をきわめる体験キット」の制作

団体見学の場合、短くて1時間、通常は2時間という時間の枠と、展示面積が広いとはいえない制約の中で、「面白い」見学を展開できないかと考え制作したのが体験キットです。これは2001年度の文部科学省「親しみ博物館づくり事業」の委嘱がきっかけで誕生しました。



左：宅配便上位3社の制服などが着られる変身キット
右：風呂敷でいろいろなものを包む体験キット

体験キットは小学生のみが対象ではありませんが、多くの小学校がキットを利用しています。現在は、宅配便などの制服を着てその秘密を探る「変身キット」、風呂敷という包装と運搬の道具に親しむ「ふろしき体験」、頭上運搬、天秤棒、俵など7種類の昔の運ぶ道具の体験「運びくらべ」(表紙写真)が中心で、今年度も新企画のキット開発に取り組んでいます。

・ヒントカードの開発(対象：小学校団体見学)

疑問を抱いて来館する児童のために、事前に調べたい項目を送ってもらい、見学当日に児童一人一人に調べを行う導入となるヒントを書いたカードを渡しています。周知の準備が必要ですが、物博見学の特色のひとつです。

・博物館資料の活用

収蔵資料を見学に利用できないかと考え、これまでも昔の運ぶ姿や仕事の様子を写した写真のスライド上映、50年前の運ぶ姿を記録した映画の上映などを希望に応じて行ってきました。今後は、写真や図版を用いた体験的なプログラムも開発していきたいと考えています。

・小学校以外の学校見学

小学校以外では、近年中学校の修学旅行での来館が増加してきました。その他、大学の博物館学の学外見学、物流関係のゼミ、技術専門学校などの見学があり、年齢層や関心に応じた見学対応を行ってきました。

4. 体験講座・映画会・講演会

物博では毎年各種の催し物を開催してきました。現在はほぼ恒例の事業となっていますが、現状維持に落ち着くことなく新たな展開を模索したいと考えています。

●夏休み子ども向け体験講座・見学会

・ひっこし大作戦（対象：小学生）

ひっこし博士が移転作業に使用する特殊なトラックの荷台や運転席に乗せてくれたり、引越しの新兵器を紹介。茶碗や家電製品などの梱包や、縄がけの仕方とも体験しました（1999年度～2001年度事業）。

・お宝を包んでみよう（対象：小学生）

専門家の指導の下、壺などを特殊な和紙と綿で包む美術品梱包を体験。（1999年度～2002年度事業）。

・段ボール工作教室（対象：未就学児～小学生）

段ボールで運ぶ乗り物を作る講座。宅配便集配車、2トトラック、コンテナ船、蒸気機関車など、年齢に応じたキットを用意。作品には自分なりのデザインを施しました。（2000年度～2003年度事業）。



段ボール工作教室「運ぶのりものを作ってみよう」

・博物館体験ツアー（対象：小学生）

品川区の児童館との共催事業。物博の展示・体験キットを楽しみ、館のバックヤードも見学。天井が下がるトラックの荷台に試乗したり、ひっこし梱包やロープの結び方も体験しました（2002年度～2003年度事業）。

・夏休み小学生バス見学会（対象：小学生）

物博を見学後、地下1階展示室にある陸海空の物流ターミナルのジオラマの実物を見に行くという催し。海上コンテナ埠頭、東京貨物ターミナル駅、羽田の機体工場、航空貨物の上屋、トラックターミナルなどを見学しました（表紙写真／2001年度～2003年度事業）。

●講座・映画会・講演会

・美術品梱包・入門編（対象：一般）

毎年8月に実施。ベテラン指導員を招き、美術品梱包の基礎を習得する講座です。美術品輸送の体験談を交えながら実技の指導を行います。博物館学芸員の資格取得中の大学生や、博物館関係者など多数が参加されています（表紙写真／1999年度～2003年度事業）。

・古文書講座（対象：一般）

館外の講師を招き、江戸時代の旅や物流に関する古文

書を読んでいく講座です。開始初年度は入門編、昨年度は初級編として実施。今年度は江戸時代の陸上・水上輸送に関する史料を中心に読んでいます。毎年参加される方も多し講座です。（2001年度～2003年度事業）

・映画上映会（対象：一般）

物流にかかわる過去の産業映画を上映する映画会です。毎年全体テーマを定め、2001年度までの3年間に5シリーズ計55本の作品を上映しました。昨年度は総集編として26作品を選定、10テーマ計20回の上映会を開催しました。（1999年度～2003年度事業）

・サンタクロース映画会（対象：未就学児～小学生）

サンタも物流業者？という発想でクリスマスの時期に行っています。サンタがプレゼントを配り、サンタの映画を上映します。（2001年度～2003年度事業）

・講演会（対象：一般）

1999年度に企業人を対象に物流講演会を計8回にわたり開催しました。2001年度には、講演会「保永堂版『東海道五十三次』にみる江戸時代の交通と旅」（講師：駒澤大学非常勤講師 櫻井邦夫氏）を開催しました。

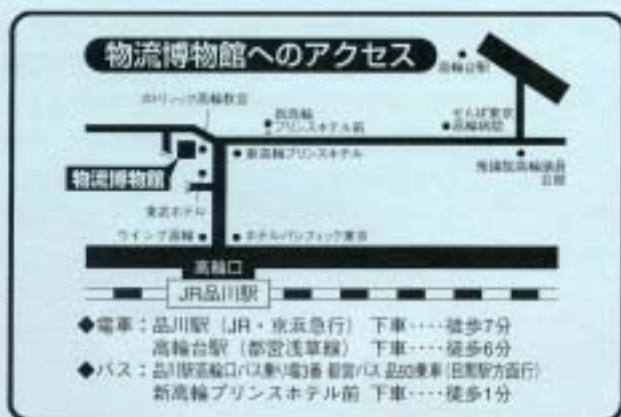
・品川区の児童館のお祭り「ファミバラ」への参加

2001年度より、毎年秋に児童館が共同で開催する「ファミバラ」に工作教室、トラック体験などを出展。

おわりに

物博の5年間はあっという間の5年間でした。大きく見れば、この5年間は物博が博物館としての軌道に乗るための助走期間だったのかもしれませんが、5年間に培った基礎の上に活動分野を更に広げ、新たな展開を図りたいと考えています。今後の物博にぜひご期待ください！

所在地 〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15
Tel 03-3280-1616 Fax 03-3280-4385
<http://www.lmuse.or.jp>



開館時間 午前10時～午後5時

休館日 毎週月曜日（但し月曜日が祝日・振替休日の場合はその翌日）

毎月第4火曜日、祝日の翌日（土日を除く）
年末年始（12月28日～1月4日）

入館料 小中学生：100円（土曜日無料・23区内小学生は申し出で全日無料）

高校生以上：200円

※学校関係の団体は入館料が免除になります。